平和登校日　講話

今から77年前の夏、1945年8月15日は、日本の歴史の中で最も長い一日だったといわれています。昭和12年ですから西暦でいえば1937年に始まった日中戦争から日本は戦争モードに入りました。そして、1941年12月8日に未明にハワイの真珠湾を攻撃したことから太平洋戦争がはじまりました。戦争が行われていた4年間で軍人や民間人合わせて300万人もの人間が亡くなったと記録には残っています。

　私の父の母、祖母は、明治時代の終わりごろに生まれました。1945年当時は、5人の子供を育てている真っ最中で、よく「食べるもんがなかなかないんや」と当時を思い出すたびにつぶやいていました。

　私の母の父は、兵隊として中国にわたりました。エリートの軍人だった弟が白馬にまたがり、その手綱を持つ一等兵の祖父が映っている写真を見ながら、「戦いで亡くなった兵隊よりも移動中に赤痢や腸チフスで亡くなった兵隊のほうが多かった」と嘆いていました。

　終戦の日から77年たちました。

　実際に戦争を体験した人たちは、ほとんどこの世にいません。私の祖父母もそうです。少年時代を戦争に奪われた私の父の世代も多くはいなくなりました。

　2022年現在、ロシアがウクライナに侵攻し戦争状態にあります。遠いところの話かもしれませんが、隣国の北朝鮮が核武装しているとか、台湾をめぐって中国とアメリカがいい関係ではないなど、平和を脅かす現実が動いています。

　今日は、じっくりと平和について考えてください。

　日本の戦争は、降伏を許しませんでした。それが戦争末期の沖縄でどうなったか。1発の爆弾で大きな町が一瞬で崩壊することを全世界が知ったヒロシマとナガサキ。それぞれ落とされた核兵器は「ウラン型」と「プルトニュウム型」と違う原料で作られ、まるで実験するかのように二つの町に落とされました。

　最後にどうか暑い夏を感じると、我々の祖先が戦争に苦しみ命を落としたそんな時間の延長線上に、今の暑い夏があるのだと思い出してください。そして、その暑い夏がいつまでも蝉の声が優しく響く平和な時間であることを守り続けてほしいと思います。